



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝「**う**つくくまわりを **え**がおであいさつを **き**ちんとくつならべ」

令和4年度第38号
熊本市立植木小学校
令和5年1月24日
文責：校長清田浩文

日常的な「スマホ子守」は要注意です！

近年、スマホやゲームを止めるよう注意しても、逆切れして暴力を振るったり、いつまでも泣き叫んだりする子どもの増加が問題になっています。自分で自分の感情をコントロールすることができないのです。そのことに関連した記事が新聞に掲載されていたので、概要を以下にまとめます。

◇ アメリカのミシガン大学の研究チームの報告より

- 幼い子どもの機嫌が悪い時に、親がスマートフォンを与えておとなしくさせる「スマホ子守」を日常的にやり過ぎると、子どもの情緒的な発達に悪影響を及ぼす恐れがある。
- 親が幼児にスマホやタブレットを持たせる頻度が高い子ほど、自分の感情をうまく制御できなくなる傾向が見られた。電子機器に頼ることで、様々なやり方でセルフコントロールを覚える正常な発達段階がじゃまされる可能性がある。
- 長時間座ったままの飛行機や新幹線の旅など、適度なスマホ使用で子どもが快適に過ごせるケースもあるが、研究チームは、そうした場合を除き、安易にスマホを与えず、「抱っこ」や「語りかけ」などで子どもの機嫌を取ることを考えてほしいとしている。
- 研究チームは2018年から2020年にかけて、約420組の親子を半年間追跡。
- 親がスマホを与えて子守する頻度と、子どもの自制心や感情の安定度などとの関係を分析すると、スマホ子守の頻度が高い子ほど、感情のコントロールが苦手な「情緒制御不全」の傾向があることが分かった。

◇ 上記の報告では、対象は幼児でしたが、小学生の子どもにも同じことが言えると思います。機嫌が悪い子どもにスマホやタブレットを与えると、騒がないで静かに過ごせるようになるとは思いますが、問題はその頻度・使用時間です。本通信でも、繰り返しゲームやスマホ使用の問題点を紹介してきました。大切なのは、問題点を理解した上で、どのように活用していくかです。

今週から、五霊中学校校区では、メディアコントロールデーの取組を再開します。この機会に、メディアコントロールについて、親子で話し合ってくださいようお願いいたします。

学校教育目標	気づき・考え・行動する、自立と共生の力を備えた子どもの育成 ～出会いと出番と対話のある学校を目指して～
--------	--